

2022 年 4 月ハイパーカレンダーレポート

○2022 年 4 月。この春は例年より肌寒い日が続いたが、その分、桜の季節を楽しめた。しかしコロナ感染状況がまだ落ち着かず、数年前のような歓送迎会は出来ないまま、新しいメンバーを迎えて、新年度がスタートした。この時期は、昨年度の報告書作成や、新年度の活動計画、新規事業提案など 1 年の準備期間でもある。当研究所が取り組んでいる活動分野は多岐にわたるが、その中で教育分野の取り組みがある。

○昨今の学校現場は、いじめ、不登校、多様な子ども達の対応、教員の不足など、様々な問題を抱えている。さらに Society5.0 時代の到来により、変化の激しい未来社会を生きていく子ども達にどういった教育が必要か、各方面で検討が進められている。2019 年に文部科学省は GIGA スクール構想を打ち出した。コロナ渦により前倒しされ、2020 年度には、全国で児童・生徒 1 人 1 台端末とネットワークの環境整備が進められることとなった。

○大分県では、高等学校も含めて、児童・生徒 1 人 1 台端末の配備が完了した。タブレット端末を活用することで、子ども 1 人ひとりの反応を把握しながら、双方向の授業が展開できる。そのため教師はよりきめ細かな指導ができるようになると期待されている。しかし、現場では教員の ICT 活用指導力の向上が喫緊の課題となっている。

○当研究所は、大分県教育委員会の委託を受け、3 月から「ICT 教育サポーター育成プラットフォーム事業」を開始した。教員の相談窓口となる GIGA ヘルプデスクを設置するとともに、ICT 教育サポーターを採用・育成し、58 校の県立学校に週に 1 回のペースで派遣する。機器トラブル対応から、ICT 機器を活用した授業づくりの支援をめざす。

○4 月は 38 名の ICT 教育サポーターに対し、育成研修を 3 週間実施した。集合研修とオンライン研修のハイブリッドで行い、講師は、共同研究員の田中康平氏（株式会社 NEL&M）が務めた。学校教育の背景に関する知識から、ICT 機器に関する実技まで、幅広い内容を取り扱った。また学校現場のトラブルを課題とし、その解決方法について考える実践的なグループワークも行われた。サポーターたちは相互に和気あいあいと教え合いながらスキルを身に付けていった。3 週間の研修終了後、スキルチェックに合格したメンバーは、OJT を兼ねて担当校への挨拶回りを行い、5 月から業務を開始している。

○事務局は試行錯誤の連続である。ICT 教育サポーターは現場で想定しなかった問題に直面し大変なことも多いだろう。でも最初は学校現場になれるところから始め、少しずつスキルアップしてほしい。この活動が、未来社会を生きる子ども達が主体的に学ぶ力を育む授業づくりにきつとつながる。そして、今後「ICT 教育サポーター育成プラットフォーム」が、地域で学校を支える存在として継続していけるよう、その在り方を考えていきたい。

（文責：渡辺律子）

ⁱ Global and Innovation Gateway for All の略。多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現するという構想。